

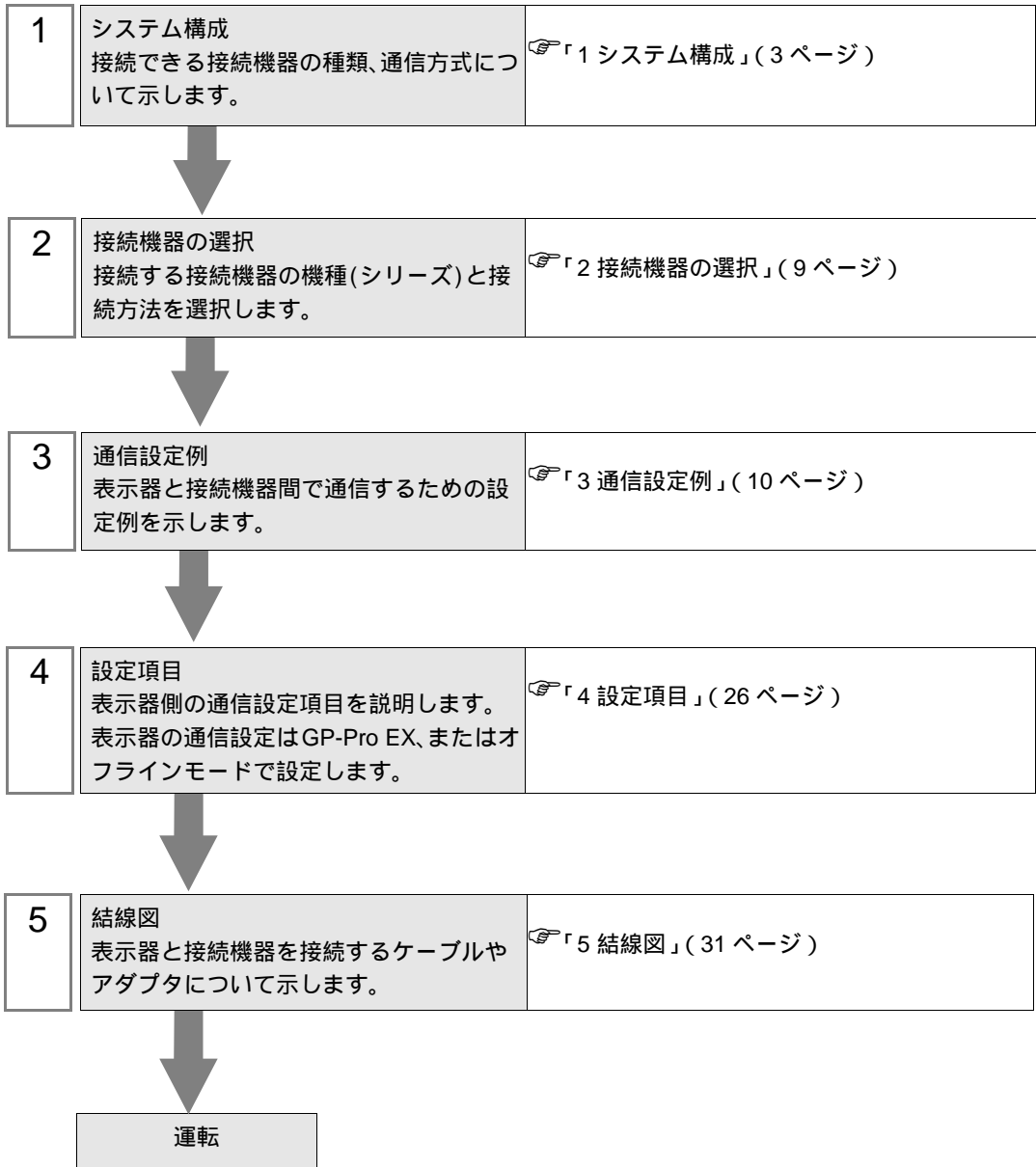
Aシリーズ計算機リンク ドライバ

| | | |
|---|----------------------|----|
| 1 | システム構成..... | 3 |
| 2 | 接続機器の選択..... | 9 |
| 3 | 通信設定例..... | 10 |
| 4 | 設定項目..... | 26 |
| 5 | 結線図..... | 31 |
| 6 | 使用可能デバイス..... | 49 |
| 7 | デバイスコードとアドレスコード..... | 53 |
| 8 | エラーメッセージ..... | 54 |

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

三菱電機（株）製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

| シリーズ | CPU | リンク I/F | 通信方式 | 設定例 | 結線図 |
|-------------------------|--|-------------------------------|----------------------------|-------------------|-------------------|
| MELSEC AnA Series | A2ACPU A2ACPU-S1 A3ACPU A2UCPU A2UCPU-S1 A3UCPU A4UCPU | AJ71C24-S6 AJ71C24-S8 | RS232C | 設定例 1 (10 ページ) | 結線図 1 (31 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 5 (18 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 5 (18 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | | AJ71UC24 | RS232C | 設定例 2 (12 ページ) | 結線図 1 (31 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 6 (20 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 6 (20 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | A2USCPU A2USHCPU-S1 | A1SJ71C24-R2 A1SJ71UC24-R2 | RS232C | 設定例 3 (14 ページ) | 結線図 3 (39 ページ) |
| | | A1SJ71C24-R4 A1SJ71UC24-R4 | RS422/485 (4 線式) | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |

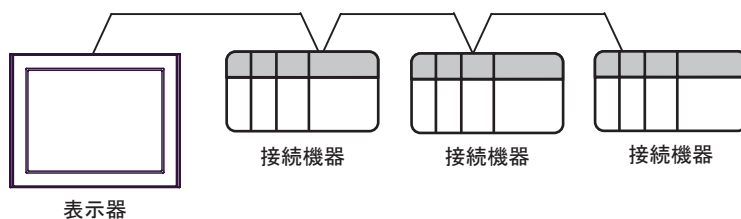
| シリーズ | CPU | リンク I/F | 通信方式 | 設定例 | 結線図 |
|-------------------|---|---|----------------------------|-------------------|-------------------|
| MELSEC AnN Series | A1NCPU A2NCPU A2NCPU-S1 A3NCPU | AJ71C24 AJ71C24-S3 AJ71C24-S6 AJ71C24-S8 | RS232C | 設定例 1 (10 ページ) | 結線図 1 (31 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 5 (18 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 5 (18 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | | AJ71UC24 | RS232C | 設定例 2 (12 ページ) | 結線図 1 (31 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 6 (20 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 6 (20 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | A1SCPU A1SJCPU A1SJHCPU A1SHCPU A2SHCPU | A1SJ71C24-R2 A1SJ71UC24-R2 | RS232C | 設定例 3 (14 ページ) | 結線図 3 (39 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | A1SJ71C24-R4 A1SJ71UC24-R4 | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | A0J2CPU A0J2HCPU | A0J2-C214-S1 | RS422/485 (4 線式) | 設定例 8 (24 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 8 (24 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| A2CCPUC24 | CPU 上の リンクポート | RS232C | 設定例 4 (16 ページ) | 結線図 3 (39 ページ) | |
| MELSEC QnA Series | Q2ACPU Q2ACPU-S1 Q3ACPU Q4ACPU Q4ARCPU | AJ71UC24 | RS232C | 設定例 2 (12 ページ) | 結線図 1 (31 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 6 (20 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 6 (20 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| | Q2ASCPU Q2ASCPU-S1 Q2ASHCPU Q2ASHCPU-S1 | A1SJ71UC24-R2 A1SJ71UC24-PRF | RS232C | 設定例 3 (14 ページ) | 結線図 3 (39 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | A1SJ71UC24-R4 | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |
| MELSEC Q Series | Q02CPU-A Q02HCPU-A Q06HCPU-A | A1SJ71UC24-R2 A1SJ71UC24-PRF | RS232C | 設定例 3 (14 ページ) | 結線図 3 (39 ページ) |
| | | | RS422/485 (4 線式) | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 2 (33 ページ) |
| | | A1SJ71UC24-R4 | RS422/485 (4 線式) マルチリンク | 設定例 7 (22 ページ) | 結線図 4 (41 ページ) |

接続構成

- 1:1 接続

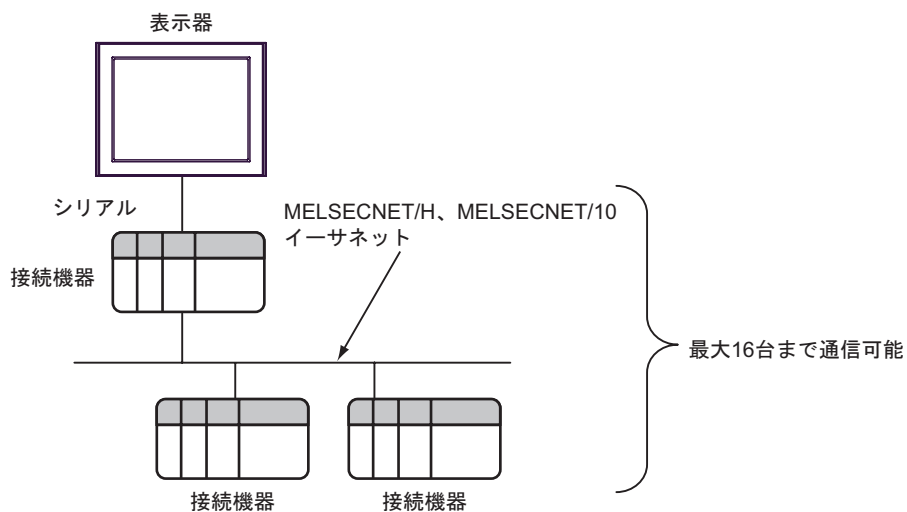


- 1:n 接続

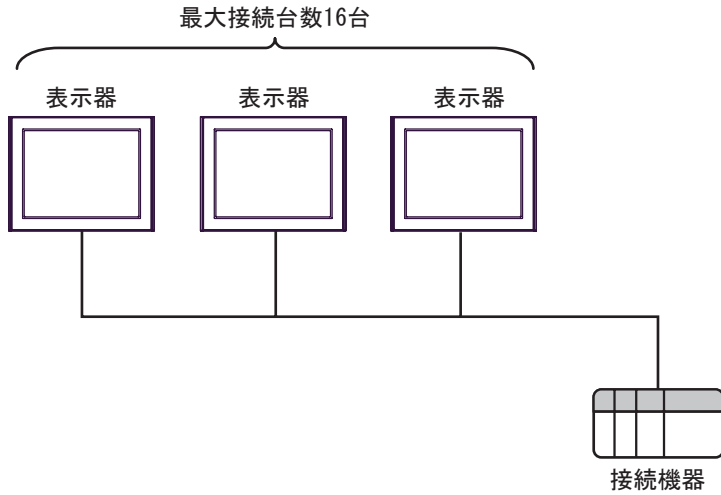


- 1:n 接続 (ネットワークを経由する場合)

MELSECNET/10、MELSECNET ()、MELSECNET/B を経由した他局へのアクセスが可能です。

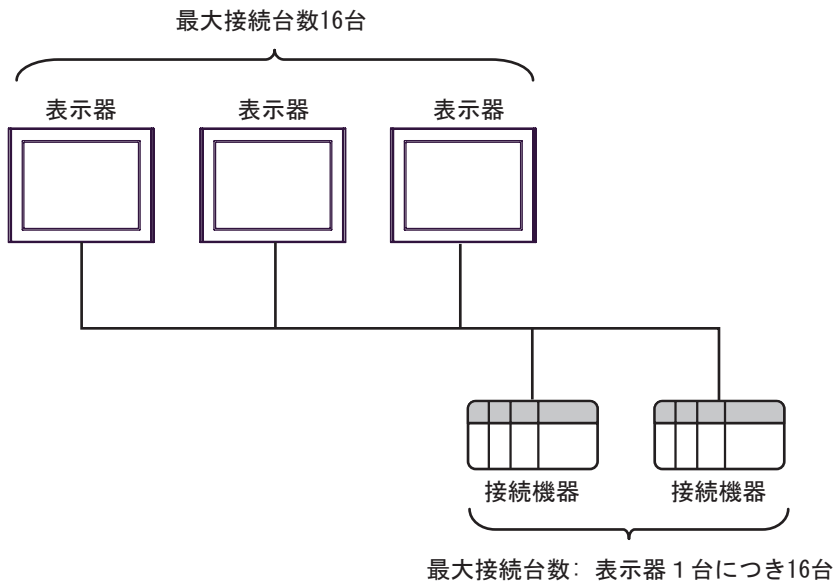


- $n : 1$ 接続 (マルチリンク接続)

**MEMO**

- 最大接続台数は 16 台ですが、接続する表示器を増やすと応答が遅くなるため、4 台までの接続を推奨します。

- $n : m$ 接続 (マルチリンク接続)

**MEMO**

- 最大接続台数は 16 台ですが、接続する表示器を増やすと応答が遅くなるため、4 台までの接続を推奨します。

IPC の COM ポートについて

接続機器と IPC を接続する場合、使用できる COM ポートはシリーズと通信方式によって異なります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。

使用可能ポート

| シリーズ | 使用可能ポート | | |
|---|---|---------------------|---------------------|
| | RS-232C | RS-422/485(4 線式) | RS-422/485(2 線式) |
| PS-2000B | COM1 ¹ 、COM2、 COM3 ¹ 、COM4 | - | - |
| PS-3450A、PS-3451A、 PS3000-BA、PS3001-BD | COM1、COM2 ^{1 2} | COM2 ^{1 2} | COM2 ^{1 2} |
| PS-3650A(T41 機種)、 PS-3651A(T41 機種) | COM1 ¹ | - | - |
| PS-3650A(T42 機種)、 PS-3651A(T42 機種) | COM1 ^{1 2} 、COM2 | COM1 ^{1 2} | COM1 ^{1 2} |
| PS-3700A (Pentium®4-M) PS-3710A | COM1 ¹ 、COM2 ¹ 、 COM3 ² 、COM4 | COM3 ² | COM3 ² |
| PS-3711A | COM1 ¹ 、COM2 ² | COM2 ² | COM2 ² |
| PS4000 ³ | COM1、COM2 | - | - |
| PL3000 | COM1 ^{1 2} 、 COM2 ¹ 、COM3、 COM4 | COM1 ^{1 2} | COM1 ^{1 2} |

- 1 RI/5V を切替えることができます。IPC の切替えスイッチで切替えてください。
- 2 通信方式をディップスイッチで設定する必要があります。使用する通信方式に合わせて、以下のように設定してください。
- 3 拡張スロットに搭載した COM ポートと接続機器を通信させる場合、通信方式は RS-232C のみサポートします。ただし、COM ポートの仕様上、ER(DTR/CTS) 制御はできません。接続機器との接続には自作ケーブルを使用し、ピン番号 1、4、6、9 には何も接続しないでください。ピン配列は IPC のマニュアルを参照してください。

ディップスイッチの設定：RS-232C

| ディップスイッチ | 設定値 | 設定内容 |
|----------|------------------|-----------------------------|
| 1 | OFF ¹ | 予約 (常時 OFF) |
| 2 | OFF | 通信方式：RS-232C |
| 3 | OFF | |
| 4 | OFF | SD(TXD) の出力モード：常に出力 |
| 5 | OFF | SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし |
| 6 | OFF | RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし |
| 7 | OFF | SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない |
| 8 | OFF | SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない |
| 9 | OFF | RS(RTS) 自動制御モード：無効 |
| 10 | OFF | |

- 1 PS-3450A、PS-3451A、PS3000-BA、PS3001-BD を使用する場合のみ設定値を ON にする必要があります。

ディップスイッチの設定：RS-422/485（4 線式）

| ディップスイッチ | 設定値 | 設定内容 |
|----------|------------------|-----------------------------|
| 1 | OFF | 予約（常時 OFF） |
| 2 | ON | 通信方式：RS-422/485 |
| 3 | ON | |
| 4 | OFF | SD(TXD) の出力モード：常に出力 |
| 5 | OFF | SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし |
| 6 | OFF | RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし |
| 7 | OFF | SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：しない |
| 8 | OFF | SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：しない |
| 9 | OFF ¹ | RS(RTS) 自動制御モード：無効 |
| 10 | OFF ¹ | |

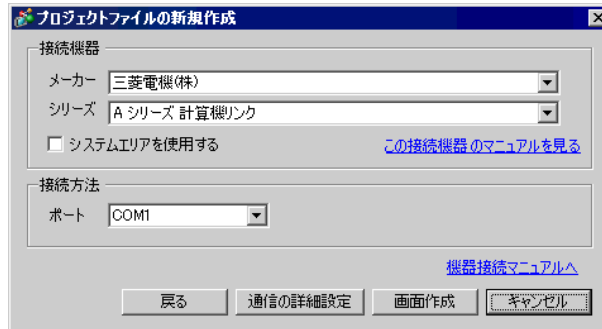
1 接続構成が n:1 接続（マルチリンク接続）および n:m 接続（マルチリンク接続）の場合のみ設定値を ON にする必要があります。

ディップスイッチの設定：RS-422/485（2 線式）

| ディップスイッチ | 設定値 | 設定内容 |
|----------|-----|----------------------------|
| 1 | OFF | 予約（常時 OFF） |
| 2 | ON | 通信方式：RS-422/485 |
| 3 | ON | |
| 4 | OFF | SD(TXD) の出力モード：常に出力 |
| 5 | OFF | SD(TXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし |
| 6 | OFF | RD(RXD) への終端抵抗挿入 (220Ω)：なし |
| 7 | ON | SDA(TXA) と RDA(RXA) の短絡：する |
| 8 | ON | SDB(TXB) と RDB(RXB) の短絡：する |
| 9 | ON | RS(RTS) 自動制御モード：有効 |
| 10 | ON | |

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



| 設定項目 | 設定内容 |
|--------------|--|
| メーカー | 接続する接続機器のメーカーを選択します。「三菱電機（株）」を選択します。 |
| シリーズ | 接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「A シリーズ計算機リンク」を選択します。 「A シリーズ計算機リンク」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 ☞「1 システム構成」（3 ページ） |
| システムエリアを使用する | 表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「本体設定（システムエリア設定）の設定ガイド」 参照：保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」 |
| ポート | 接続機器と接続する表示器のポートを選択します。 |

3 通信設定例

(株) デジタルが推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

A シリーズを使用する場合は GP-ProEX およびラダーソフトで以下のように設定します。


3.1 設定例 1


GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 4 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|--------------------|
| SW11 | OFF | 主チャンネル設定 |
| SW12 | OFF | データビット設定 |
| SW13 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW14 | ON | |
| SW15 | ON | |
| SW16 | ON | パリティビットの有無設定 |
| SW17 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW18 | ON | ストップビット設定 |
| SW21 | ON | サムチェックの有無設定 |
| SW22 | ON | RUN 中書込み可・否設定 |
| SW23 | OFF | 送信側終端抵抗有無設定 |
| SW24 | OFF | 受信側終端抵抗有無設定 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |

3.2 設定例 2

GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 4 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|-----------------------|
| SW11 | OFF | 主チャンネル設定 |
| SW12 | OFF | データビット設定 |
| SW13 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW14 | ON | |
| SW15 | ON | |
| SW16 | ON | パリティビットの有無設定 |
| SW17 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW18 | ON | ストップビット設定 |
| SW21 | ON | サムチェックの有無設定 |
| SW22 | ON | RUN 中書込み可・否の設定 |
| SW23 | ON | 計算機リンク / マルチドロップリンク選択 |
| SW24 | 未使用 | 未使用 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |


3.3 設定例 3


GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 4 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|--------------------|
| SW03 | 未使用 | 未使用 |
| SW04 | ON | RUN 中書込み可・不可設定 |
| SW05 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW06 | ON | |
| SW07 | ON | |
| SW08 | OFF | データビット設定 |
| SW09 | ON | パリティビットの有無 |
| SW10 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW11 | ON | ストップビットの設定 |
| SW12 | ON | サムチェックの有無設定 |


3.4 設定例 4


GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 4 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|-------------------|
| SW11 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW12 | ON | |
| SW13 | ON | |
| SW14 | ON | データビット設定 |
| SW15 | ON | パリティの有無設定 |
| SW16 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティ設定 |
| SW17 | ON | ストップビット設定 |
| SW18 | ON | サムチェックの有無設定 |
| SW19 | ON | 主チャンネル設定 |
| SW20 | OFF | RUN 中書込みの可 / 不可設定 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |

3.5 設定例 5

GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 接続機器変更

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

接続可能台数 16台

| No. | 機器名 | 設定 |
|-----|------|-----------------|
| 1 | PLC1 | 局番号=0, PC番号=255 |

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

局番号

PC番号

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 8 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|--------------------|
| SW11 | ON | 主チャンネル設定 |
| SW12 | OFF | データビット設定 |
| SW13 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW14 | ON | |
| SW15 | ON | |
| SW16 | ON | パリティビットの有無設定 |
| SW17 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW18 | ON | ストップビット設定 |
| SW21 | ON | サムチェックの有無設定 |
| SW22 | ON | RUN 中書込み可・否設定 |
| SW23 | ON | 送信側終端抵抗有無設定 |
| SW24 | ON | 受信側終端抵抗有無設定 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |

3.6 設定例 6

GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 接続機器変更

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

接続可能台数 16台

| No. | 機器名 | 設定 |
|-----|------|-----------------|
| 1 | PLC1 | 局番号=0, PC番号=255 |

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

局番号

PC番号

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 8 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|-----------------------|
| SW11 | ON | 主チャンネル設定 |
| SW12 | OFF | データビット設定 |
| SW13 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW14 | ON | |
| SW15 | ON | |
| SW16 | ON | パリティビットの有無設定 |
| SW17 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW18 | ON | ストップビット設定 |
| SW21 | ON | サムチェックの有無設定 |
| SW22 | ON | RUN 中書込み可・否の設定 |
| SW23 | ON | 計算機リンク / マルチドロップリンク選択 |
| SW24 | 未使用 | 未使用 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |

3.7 設定例 7

GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 接続機器変更

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

接続可能台数 16台

| No. | 機器名 | 設定 |
|-----|------|-----------------|
| 1 | PLC1 | 局番号=0, PC番号=255 |

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

局番号

PC番号

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 8 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|-----------------------|
| SW01 | 未使用 | 未使用 |
| SW02 | ON | 計算機リンク / マルチドロップリンク選択 |
| SW03 | 未使用 | 未使用 |
| SW04 | ON | RUN 中書込み可・不可設定 |
| SW05 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW06 | ON | |
| SW07 | ON | |
| SW08 | OFF | データビットの設定 |
| SW09 | ON | パリティビットの有無 |
| SW10 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW11 | ON | ストップビットの設定 |
| SW12 | ON | サムチェックの有無設定 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |

3.8 設定例 8

GP-ProEX の設定

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要 接続機器変更

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。

機器別設定

接続可能台数 16台

| No. | 機器名 | 設定 |
|-----|------|-----------------|
| 1 | PLC1 | 局番号=0, PC番号=255 |

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

局番号

PC番号

接続機器の設定

計算機リンクユニットのディップスイッチにより設定を行います。詳細は接続機器のマニュアルを参照ください。

モード設定ロータリスイッチ

| 設定 | 設定内容 |
|----|--------------|
| 8 | 形式4のプロトコルモード |

通信設定ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|-----------------------|
| SW10 | ON | 計算機リンク / マルチドロップリンク選択 |
| SW11 | ON | 主チャンネル設定 |
| SW12 | ON | RUN 中書込み可・否設定 |
| SW13 | OFF | 伝送速度設定 |
| SW14 | ON | |
| SW15 | ON | |
| SW16 | OFF | データビット設定 |
| SW17 | ON | パリティの有無設定 |
| SW18 | ON | 偶数パリティ / 奇数パリティの設定 |
| SW19 | ON | ストップビット設定 |
| SW20 | ON | サムチェックの有無設定 |

終端抵抗ディップスイッチ

| ディップスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|-----|---------|
| SW21 | OFF | 未使用 |
| SW22 | 任意 | 送信側終端抵抗 |
| SW23 | 任意 | 受信側終端抵抗 |

局番設定ロータリスイッチ

| ロータリスイッチ | 設定 | 設定内容 |
|----------|----|------|
| X10 | 0 | 局番設定 |
| X1 | 0 | |

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。
各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(10 ページ)

4.1 GP-ProEX での設定項目

通信設定

設定画面を表示するには、ワークスペースの [システム設定ウィンドウ] から [接続機器設定] を選択します。

接続機器1

概要

メーカー シリーズ ポート

文字列データモード [変更](#)

通信設定

通信方式 RS232C RS422/485(2線式) RS422/485(4線式)

通信速度

データ長 7 8

パリティ なし 偶数 奇数

ストップビット 1 2

フロー制御 なし ER(DTR/CTS) XON/XOFF

タイムアウト (sec)

リトライ

送信ウェイト (ms)

RI / VCC RI VCC

RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。


[初期設定](#)


機器別指定

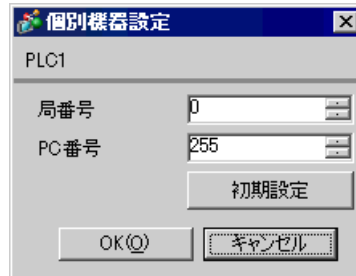
| 接続可能台数 | 16台 | |
|--------|------|----------------|
| No. | 機器名 | 設定 |
| 1 | PLC1 | 周番号=0,PC番号=255 |

| 設定項目 | 設定内容 |
|---------|---|
| 通信方式 | 接続機器と通信する通信方式を選択します。 |
| 通信速度 | 接続機器と表示器間の通信速度を選択します。 |
| データ長 | データ長を選択します。 |
| パリティ | パリティチェックの方法を選択します。 |
| ストップビット | ストップビット長を選択します。 |
| フロー制御 | 送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御方式を選択します。 |
| タイムアウト | 表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。 重要 <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク経由で通信する場合は、5 秒以上に設定してください。 |
| リトライ | 接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。 |
| 送信ウェイト | 表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。 |
| RI/VCC | 通信方式で RS232C を選択した場合に、9 番ピンの RI/VCC を切り替えます。IPC と接続する場合は IPC の切替スイッチで RI/5V を切り替える必要があります。詳細は IPC のマニュアルを参照してください。 |

機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から  をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



| 設定項目 | 設定内容 |
|-------|--|
| 局番号 | 接続機器の号機番号を「0～31」で入力します。 |
| PC 番号 | ネットワーク経由で通信するときを設定します。通信する接続機器の PC 番号を「0～64」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「255」を入力します。 |

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO

- オフラインモードへの入り方や操作方法は保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

- オフラインモードは使用する表示器によって 1 画面に表示できる設定項目数が異なります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

| 通信設定 | 機器設定 | オプション | | |
|-------------------------------|--|-------|------------------------|--|
| A シリーズ 計算機リンク [COM1] Page 1/1 | | | | |
| 通信方式 | RS232C | | | |
| 通信速度 | 19200 | | | |
| データ長 | <input type="radio"/> 7 <input type="radio"/> 8 | | | |
| パリティ | <input type="radio"/> なし <input type="radio"/> 偶数 <input type="radio"/> 奇数 | | | |
| ストップビット | <input type="radio"/> 1 <input type="radio"/> 2 | | | |
| フロー制御 | ER(DTR/CTS) | | | |
| タイムアウト(s) | 3 | | | |
| リトライ | 2 | | | |
| 送信ウェイト(ms) | 0 | | | |
| 終了 | | | 戻る | |
| | | | 2005/09/02 12:30:46 | |

| 設定項目 | 設定内容 |
|-------------|---|
| 通信方式 | 接続機器と通信する通信方式を選択します。 重要 通信設定を行う場合、[通信方式] は表示器のシリアルインターフェイスの仕様を確認し、正しく設定してください。シリアルインターフェイスが対応していない通信方式を選択した場合の動作は保証できません。シリアルインターフェイスの仕様については表示器のマニュアルを参照してください。 |
| 通信速度 | 接続機器と表示器間の通信速度を選択します。 |
| データ長 | データ長を選択します。 |
| パリティ | パリティチェックの方法を選択します。 |
| ストップビット | ストップビット長を選択します。 |
| フロー制御 | 送受信データのオーバーフローを防ぐために行う通信制御方式を選択します。 |
| タイムアウト (s) | 表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (s) を「1 ~ 127」で入力します。 重要 • ネットワーク経由で通信する場合は、5 秒以上に設定してください。 |
| リトライ | 接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ~ 255」で入力します。 |
| 送信ウェイト (ms) | 表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ~ 255」で入力します。 |

機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

| 通信設定 | 機器設定 | オプション | | |
|---------------|------|--------|----------|------------------------|
| A シリーズ 計算機リンク | | [COM1] | Page 1/1 | |
| 接続機器名 | | PLC1 | | |
| 局番号 | 0 | | | |
| PC番号 | 255 | | | |
| 終了 | | 戻る | | 2005/09/02 12:30:53 |

| 設定項目 | 設定内容 |
|-------|--|
| 接続機器名 | 設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1]) |
| 局番号 | 接続機器の号機番号を「0 ~ 31」で入力します。 |
| PC 番号 | ネットワーク経由で通信するときに設定します。通信する接続機器の PC 番号を「0 ~ 64」で入力します。ネットワークを経由しない場合は「255」を入力します。 |

オプション

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[オプション] をタッチします。

| 通信設定 | 機器設定 | オプション | | |
|---|------|--------|----------|------------------------|
| A シリーズ 計算機リンク | | [COM1] | Page 1/1 | |
| RI / VCC <input checked="" type="radio"/> RI <input type="radio"/> VCC RS232Cの場合、9番ピンをRI(入力)にするかVCC(5V電源供給)にするかを選択できます。デジタル製RS232Cアイソレーションユニットを使用する場合は、VCCを選択してください。 | | | | |
| 終了 | | 戻る | | 2005/09/02 12:30:55 |

| 設定項目 | 設定内容 |
|--------|--|
| RI/VCC | 通信方式でRS232Cを選択した場合に、9番ピンのRI/VCCを切り替えます。IPCと接続する場合はIPCの切替スイッチでRI/5Vを切り替える必要があります。詳細はIPCのマニュアルを参照してください。 |

MEMO

- GP-4100 シリーズおよび GP-4*01TM の場合、オフラインモードに [オプション] の設定はありません。

5 結線図

以下に示す結線図と三菱電機（株）の推奨する結線図が異なる場合がありますが、本書に示す結線図でも動作上問題ありません。

- 接続機器本体の FG 端子は D 種接地を行ってください。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。
- 表示器内部で SG と FG は接続されています。接続機器と SG を接続する場合は短絡ループが形成されないようにシステムを設計してください。
- ノイズなどの影響で通信が安定しない場合はアイソレーションユニットを接続してください。

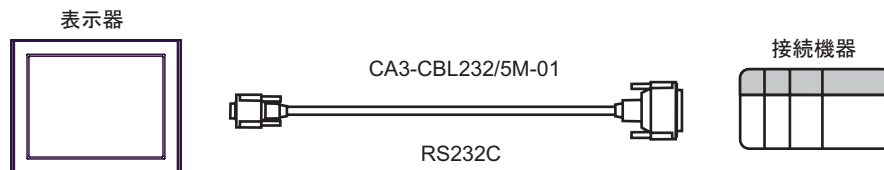
結線図 1

| 表示器 (接続ポート) | ケーブル | 備考 |
|---|---|-------------------------|
| GP3000 (COM1) GP-4*0ITM (COM1) ST (COM1) IPC ¹ PC/AT | 1A (株) デジタル製 RS232C ケーブル CA3-CBL232/5M-01 (5m) | |
| | 1B 自作ケーブル | ケーブル長は最大 15m 以内にしてください。 |
| GP-4105 (COM1) | 1C 自作ケーブル | |

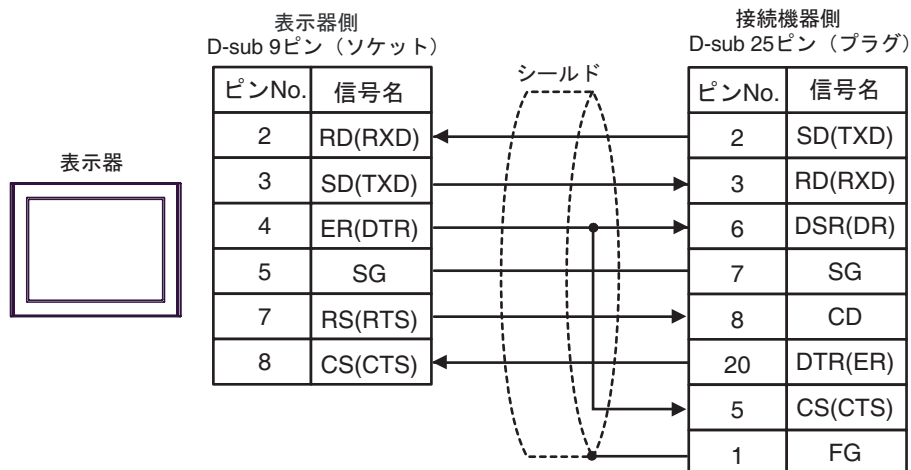
1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

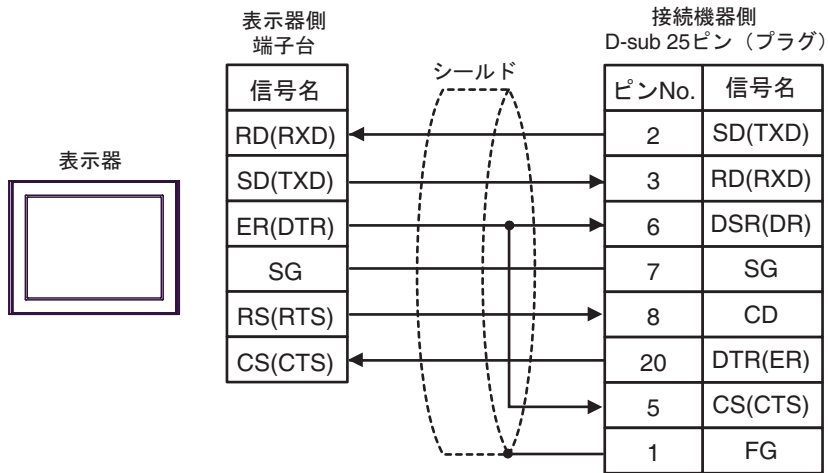
1A)



1B)



1C)



結線図 2

| 表示器 (接続ポート) | ケーブル | | 備考 |
|--|------|---|---------------------------------|
| GP3000 ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*0ITM (COM1) ST ² (COM2) IPC ³ | 2A | (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル | ケーブル長は最大 500m 以内にしてくだ さい。 |
| | 2B | 自作ケーブル | |
| GP3000 ⁴ (COM2) | 2C | (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル | |
| | 2D | (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル | |
| GP-4106 (COM1) | 2E | 自作ケーブル | |

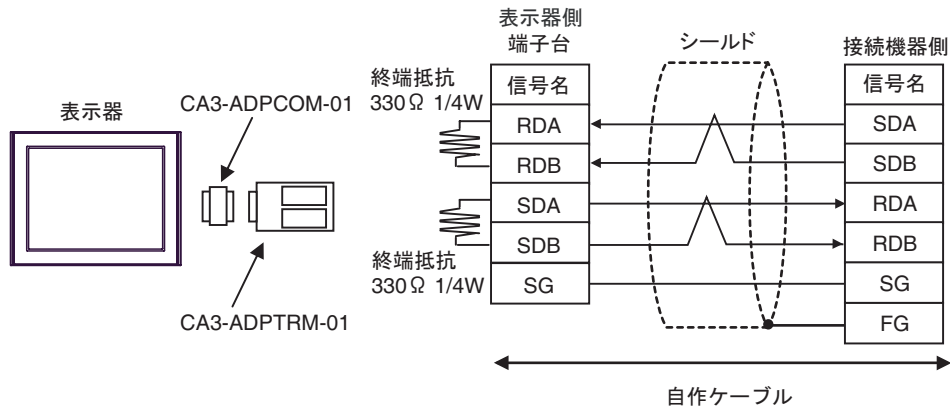
- 1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種
- 2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種
- 3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。
IPC の COM ポートについて (7 ページ)
- 4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

MEMO

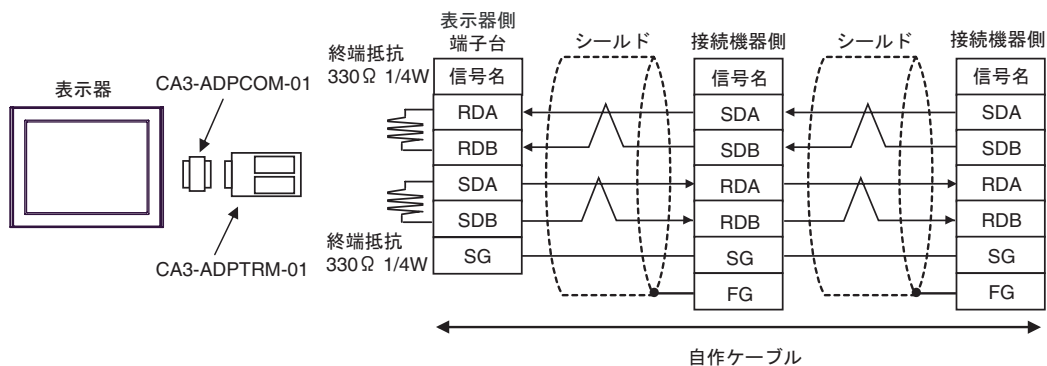
- 伝送ケーブルは耐ノイズ性向上のために、ツイストペア一括シールドケーブルを使用し、シールド線を必ず接地してください。

2A)

- 1:1 接続の場合



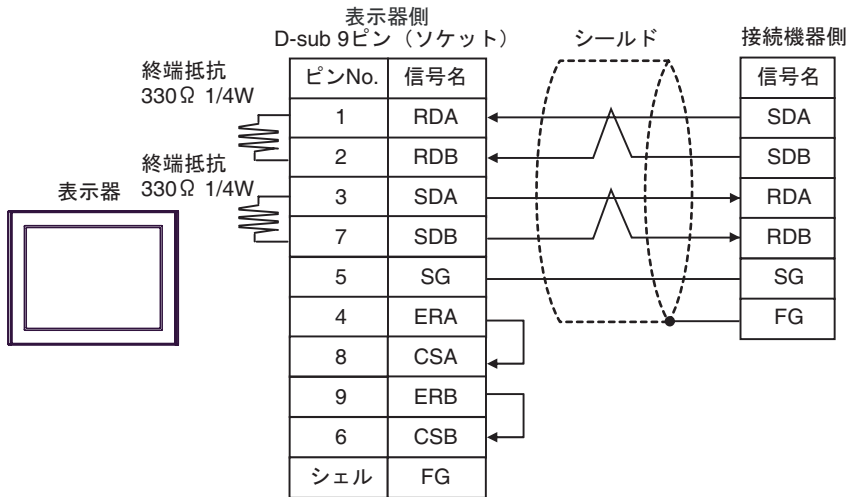
- 1:n 接続の場合

**重要**

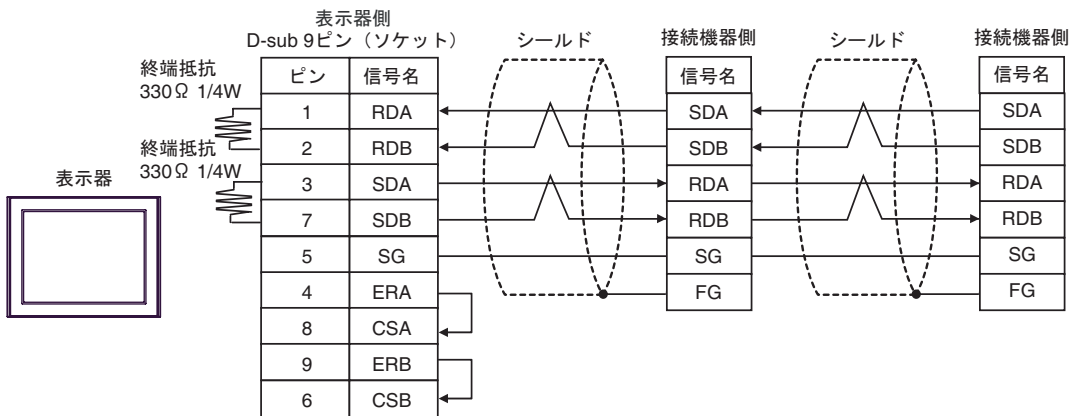
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

2B)

- 1:1 接続の場合



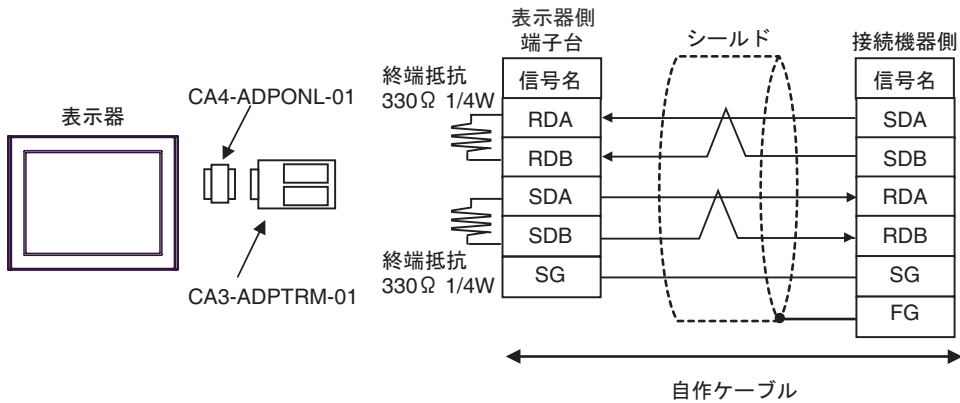
- 1:n 接続の場合

**重要**

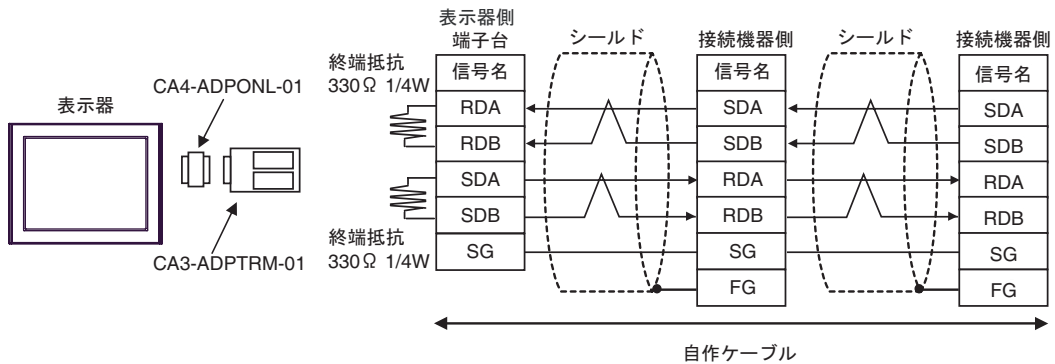
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

2C)

- 1:1 接続の場合



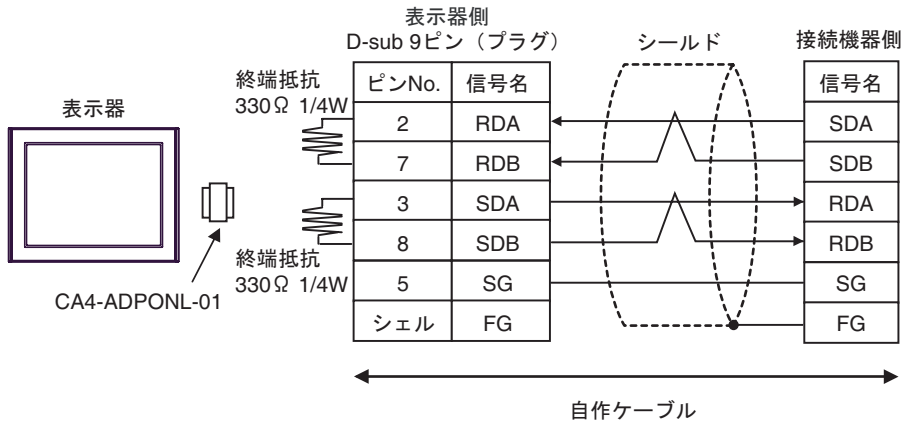
- 1:n 接続の場合

**重要**

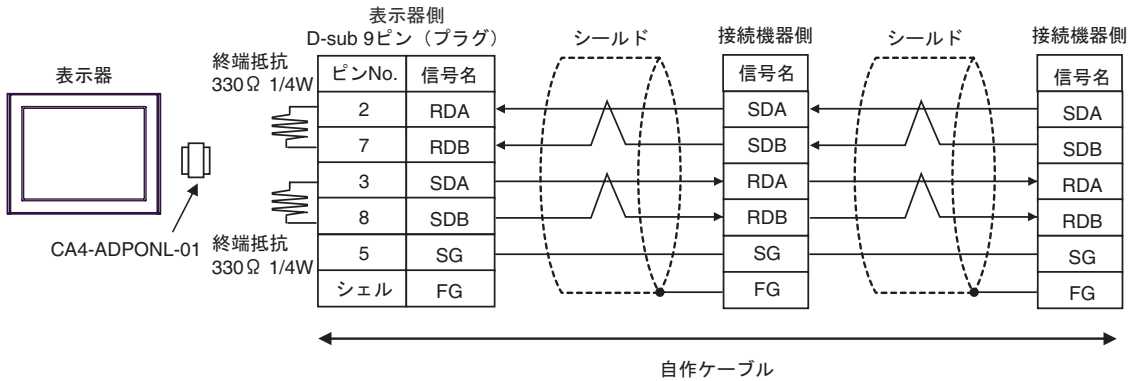
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

2D)

- 1:1 接続の場合



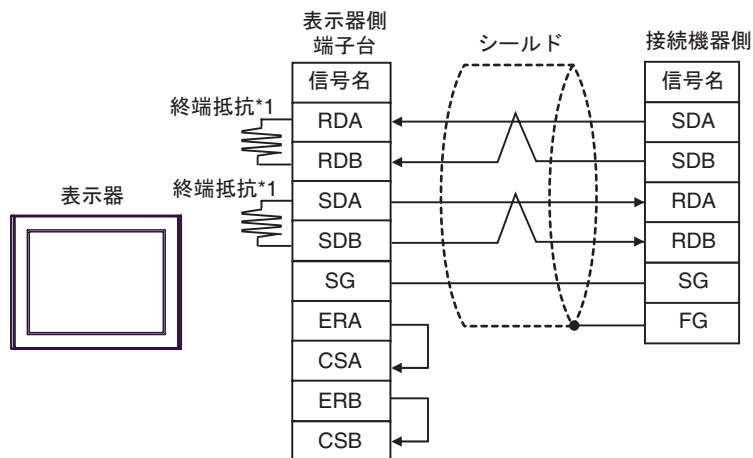
- 1:n 接続の場合

**重要**

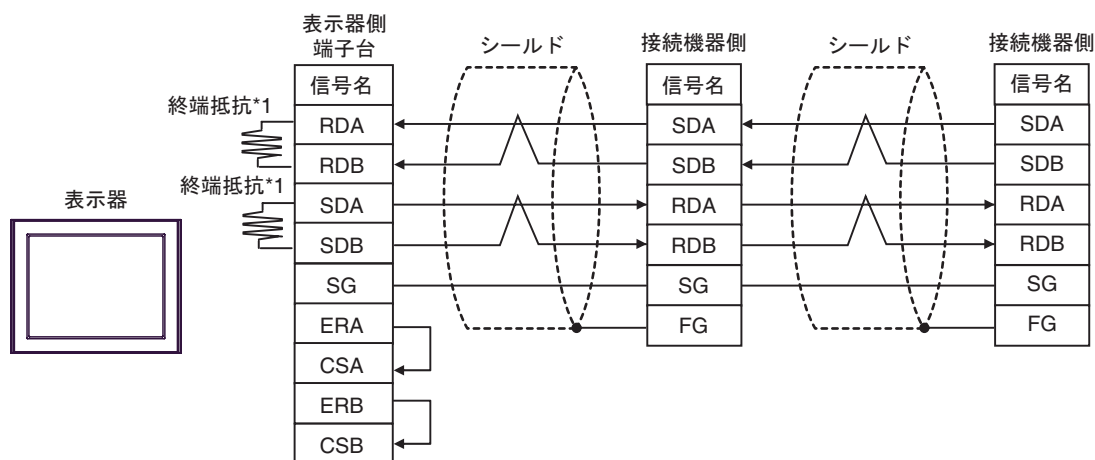
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

2E)

- 1:1 接続の場合



- 1:n 接続の場合

**重要**

- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

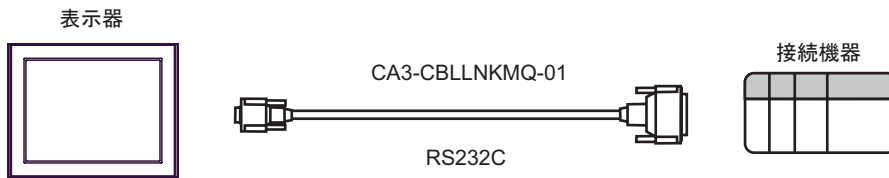
| ディップスイッチ | 設定内容 |
|----------|------|
| 1 | ON |
| 2 | OFF |
| 3 | ON |
| 4 | OFF |

結線図 3

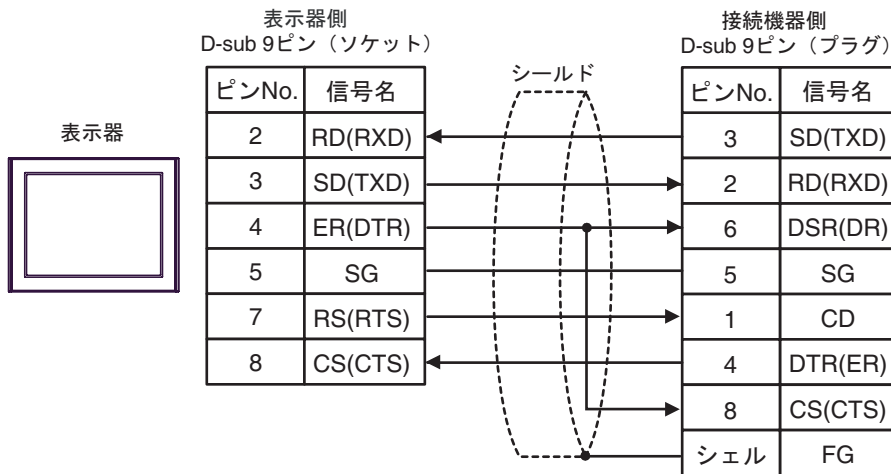
| 表示器 (接続ポート) | ケーブル | | 備考 |
|---|------|---|---------------------------|
| GP3000 (COM1) GP-4*0ITM (COM1) ST (COM1) IPC ¹ PC/AT | 3A | (株)デジタル製 三菱 Q リンクケーブル CA3-CBLLNKMQ-01 (5m) | |
| | 3B | 自作ケーブル | ケーブル長は 15m 以内に してください。 |
| GP-4105 (COM1) | 3C | 自作ケーブル | |

- 1 RS-232C で通信できる COM ポートのみ使用できます。
 ④ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

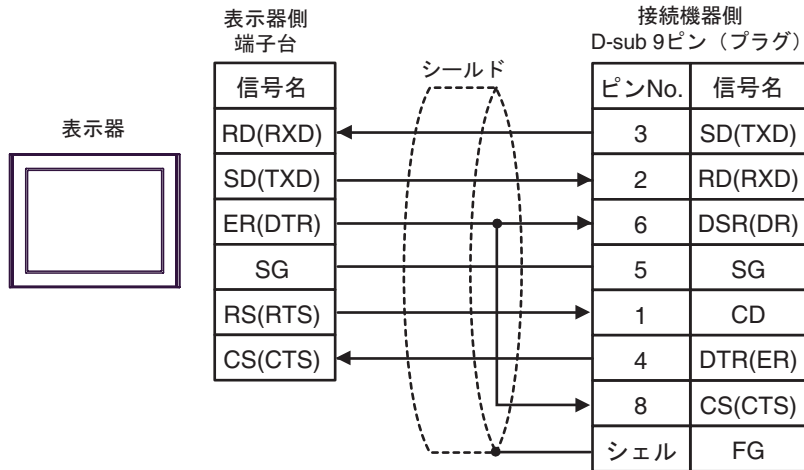
3A)



3B)



3C)



結線図 4

| 表示器 (接続ポート) | ケーブル | | 備考 |
|--|------|---|-------------------------------|
| GP3000 ¹ (COM1) AGP-3302B (COM2) GP-4*01TM (COM1) ST ² (COM2) IPC ³ | 4A | (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル | ケーブル長は 500m 以内に してください。 |
| | 4B | (株) デジタル製 COM ポート変換アダプタ CA3-ADPCOM-01 + (株) デジタル製 マルチリンクケーブル CA3-CBLMLT-01 + 自作ケーブル | |
| | 4C | 自作ケーブル | |
| GP3000 ⁴ (COM2) | 4D | (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製コネクタ端子台変換アダプタ CA3-ADPTRM-01 + 自作ケーブル | |
| | 4E | (株) デジタル製 オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + (株) デジタル製 マルチリンクケーブル CA3-CBLMLT-01 + 自作ケーブル | |
| | 4F | (株) デジタル製オンラインアダプタ CA4-ADPONL-01 + 自作ケーブル | |
| GP-4106 (COM1) | 4G | 自作ケーブル | |

1 AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

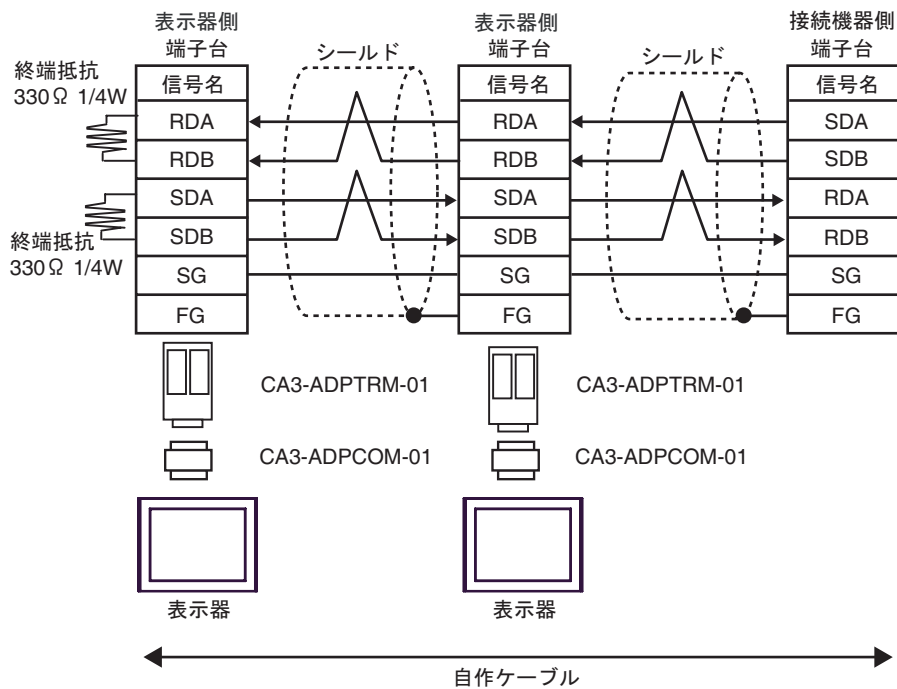
2 AST-3211A および AST-3302B を除く全 ST 機種

3 RS-422/485(4 線式) で通信できる COM ポートのみ使用できます。

☞ IPC の COM ポートについて (7 ページ)

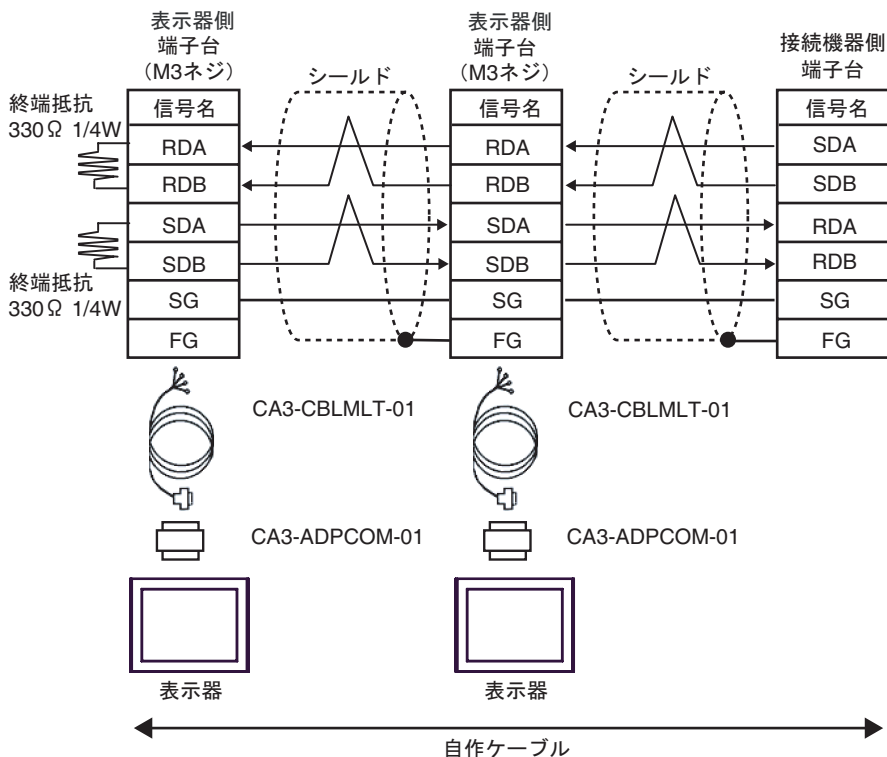
4 GP-3200 シリーズおよび AGP-3302B を除く全 GP3000 機種

4A)

**重要**

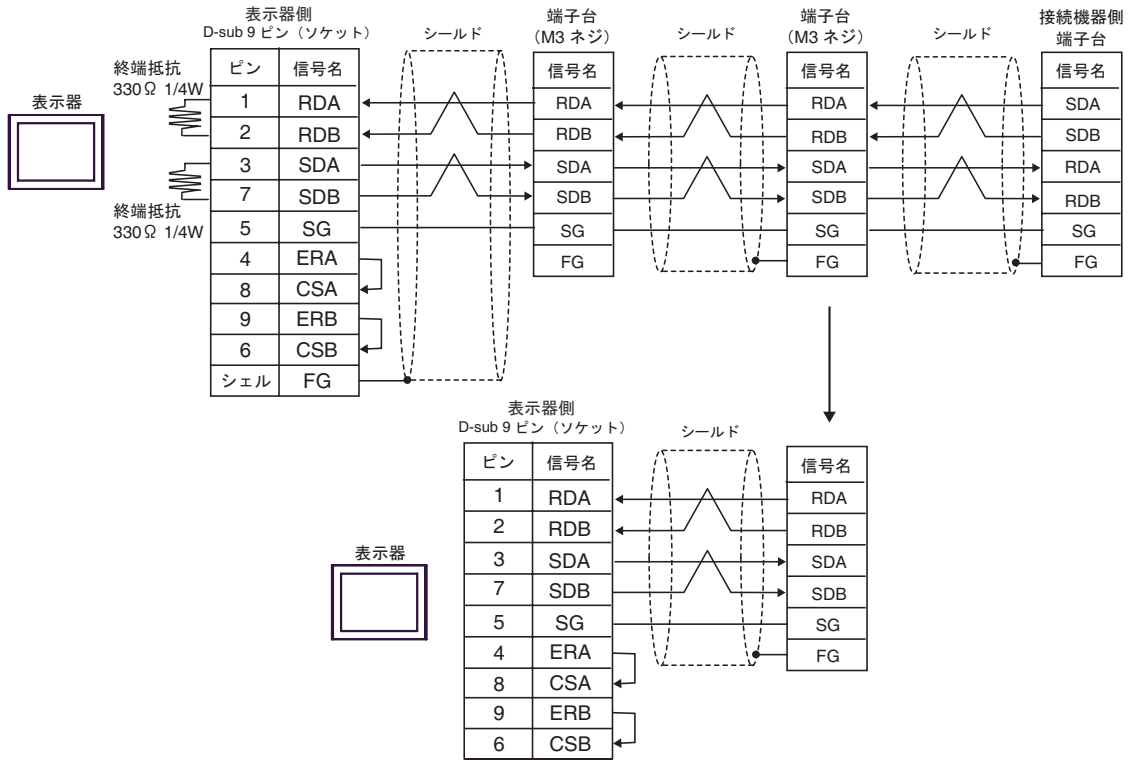
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330 Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

4B)

**重要**

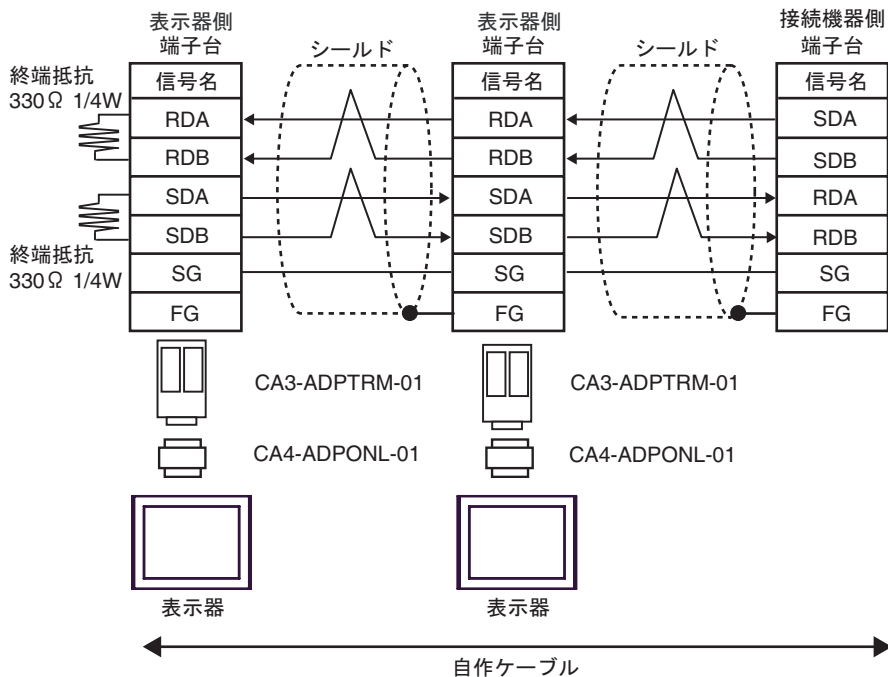
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

4C)

**重要**

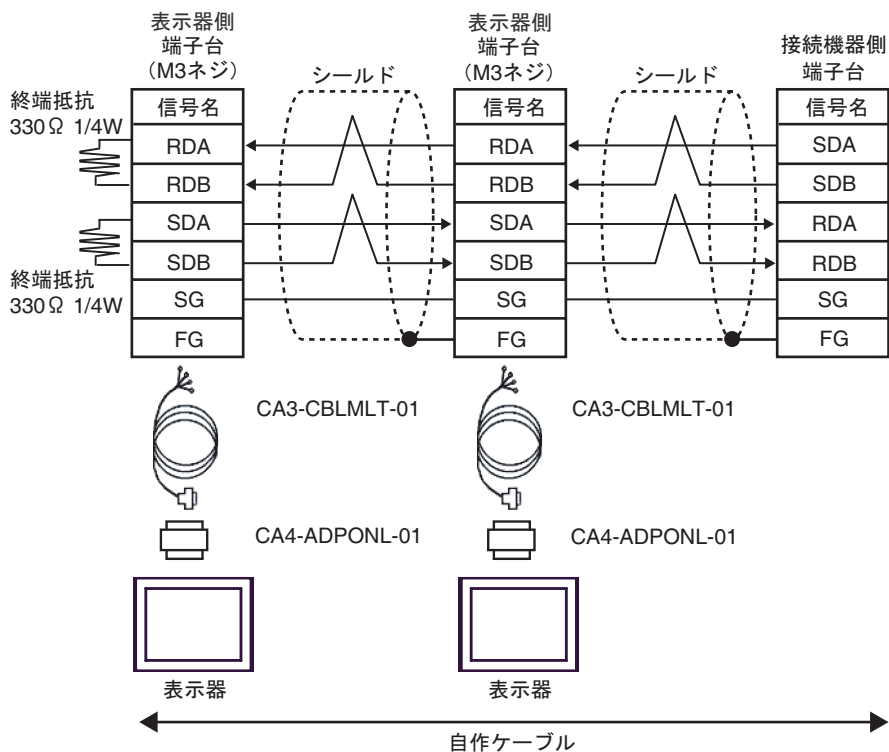
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

4D)

**重要**

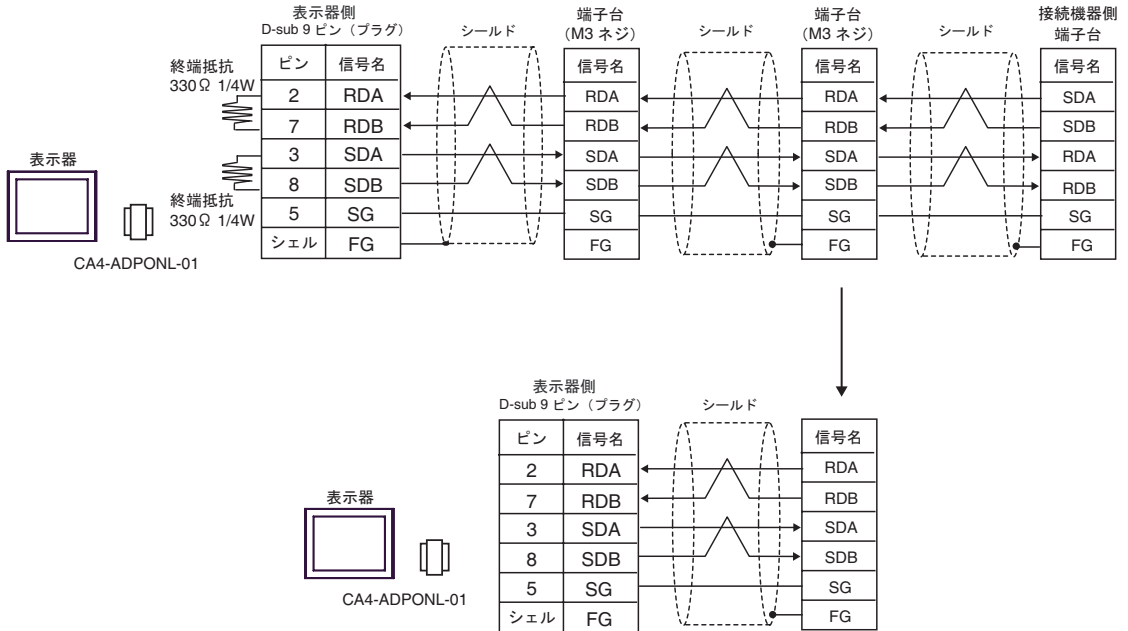
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330 Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

4E)

**重要**

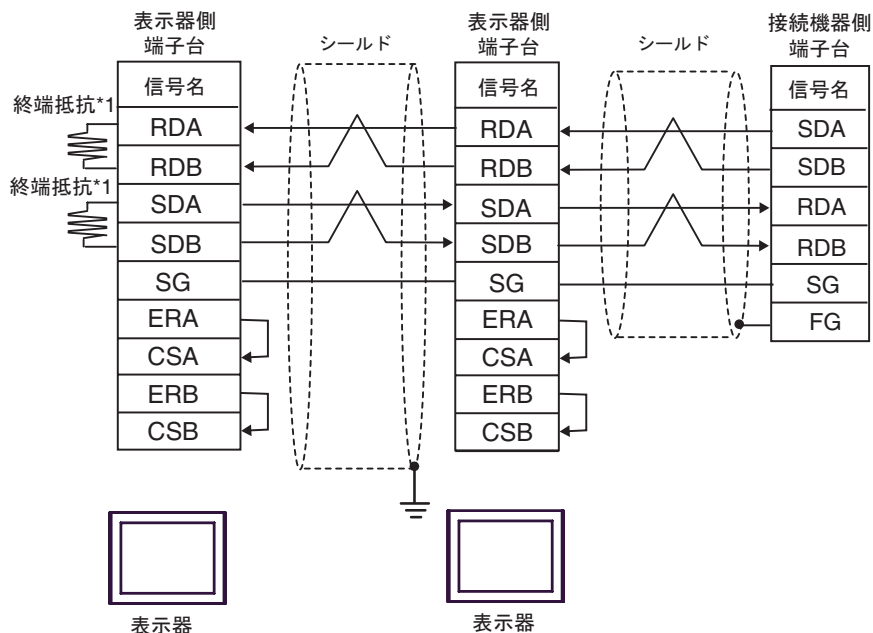
- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

4F)

**重要**

- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

4G)

**重要**

- 終端となる接続機器側のユニットの SDA-SDB 間と RDA-RDB 間に 330 Ω 1/4W の終端抵抗が必要です。
- ユニットに終端抵抗スイッチが付いている場合は、スイッチを ON にすることによって終端抵抗を負荷することができます。詳しくは接続機器のマニュアルを参照してください。

*1 表示器に内蔵している抵抗を終端抵抗として使用します。表示器背面のディップスイッチを以下のように設定してください。

| ディップスイッチ | 設定内容 |
|----------|------|
| 1 | ON |
| 2 | OFF |
| 3 | ON |
| 4 | OFF |

n:1 接続の場合、終端となる表示器以外は表示器背面のディップスイッチ 1 から 4 をすべて OFF してください。

6 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

6.1 MELSEC AnA シリーズ、Q シリーズ A モード

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | ビットアドレス | ワードアドレス | 32bits | 備考 |
|---------------------|--|---|--------|--|
| 入力 | X00000-X01FFF (X007FF ¹) | X00000-X01FF0 (X007F0 ¹) | [L/H] | ***0 |
| 出力 | Y00000-Y01FFF (Y007FF ¹) | Y00000-Y01FF0 (Y007F0 ¹) | | ***0 |
| 内部リレー | M0000-M8191 | M0000-M8176 | | +16 |
| ラッチリレー | L000000-L008191 | L000000-L008176 | | +16 |
| ステップリレー | S000000-S008191 | S000000-S008176 | | +16 |
| リンクリレー | B00000-B01FFF (B00FFF ¹) | B00000-B01FF0 (B00FF0 ¹) | | ***0 |
| アナンシェータ | F000000-F002047 | F000000-F002032 | | +16 |
| 特殊リレー | M9000-M9255 | M9000-M9240 | | +16 |
| タイマ (接点) | TS00000-TS02047 | ----- | | |
| タイマ (コイル) | TC00000-TC02047 | ----- | | |
| カウンタ (接点) | CS00000-CS01023 | ----- | | |
| カウンタ (コイル) | CC00000-CC01023 | ----- | | |
| タイマ (現在値) | ----- | TN00000-TN02047 | | |
| カウンタ (現在値) | ----- | CN00000-CN01023 | | |
| データレジスタ | ----- | D00000-D08191 (D06143 ¹) | | Bit 15 |
| リンクレジスタ | ----- | W0000-W1FFF (W0FFF ¹) | | Bit F |
| ファイルレジスタ | ----- | R00000-R08191 | | Bit 15 |
| 拡張ファイルレジスタ | ----- | 0R00000 - 0R8191 : 64R00000 - 64R8191 | | Bit 15 |
| 特殊レジスタ ² | ----- | D09000-D09255 | | Bit 15 |

1 AJ71UC24、A1SJ71UC24-R2/R4/PRF 以外の計算機リンクユニットで指定できる最大デバイス番号を示します。

2 読み出し専用、書き込み専用、システム用に分かれています。書き込み可能範囲外に書き込みを行うと、接続機器の CPU エラーが起こることがあります。

MEMO


- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-ProEX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

☞ 「表記のルール」

6.2 MELSEC AnN シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | ビットアドレス | ワードアドレス | 32bits | 備考 |
|---------------------|-------------------|--|--------|---|
| 入力 | X00000 - X007FF | X00000 - X007F0 | L/H |  |
| 出力 | Y00000 - Y007FF | Y00000 - Y007F0 | |  |
| 内部リレー | M0000 - M2047 | M0000 - M2032 | |  |
| ラッチリレー | L000000 - L002047 | L000000 - L002032 | |  |
| ステップリレー | S000000 - S002047 | S000000 - S002032 | |  |
| リンクリレー | B00000 - B003FF | B00000 - B003F0 | |  |
| アナンシェータ | F000000 - F000255 | F000000 - F000240 | |  |
| 特殊リレー | M9000 - M9255 | M9000 - M9240 | |  |
| タイマ (接点) | TS00000 - TS00255 | ----- | | |
| タイマ (コイル) | TC00000 - TC00255 | ----- | | |
| カウンタ (接点) | CS00000 - CS00255 | ----- | | |
| カウンタ (コイル) | CC00000 - CC00255 | ----- | | |
| タイマ (現在値) | ----- | TN00000 - TN00255 | | |
| カウンタ (現在値) | ----- | CN00000 - CN00255 | | |
| データレジスタ | ----- |  D00000 - D01023 | |  |
| リンクレジスタ | ----- | W0000 - W03FF | |  |
| ファイルレジスタ | ----- | R00000 - R08191 | |  |
| 拡張ファイルレジスタ | ----- | 0R00000 - 0R8191 : 28R00000 - 28R8191 | |  |
| 特殊レジスタ ¹ | ----- | D09000 - D09255 | |  |

1 読み出し専用、書き込み専用、システム用に分かれています。書き込み可能範囲外に書き込みを行うと、接続機器の CPU エラーが起こることがあります。

MEMO


- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6.3 MELSEC QnA シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

| デバイス | ビットアドレス | ワードアドレス | 32bits | 備考 |
|------------|--------------------------------------|--|--------|---|
| 入力リレー | X0000 - X07FF | X0000 - X07F0 | [L/H] |  |
| 出力リレー | Y0000 - Y07FF | Y0000 - Y07F0 | |  |
| 内部リレー | M0000 - M8191 | M0000 - M8176 | |  |
| 特殊リレー | M9000 - M9255 (SM1000 - SM1255) | M9000 - M9240 (SM1000 - SM1240) | |  |
| アナンシェータ | F00000 - F02047 | F00000 - F02047 | |  |
| リンクリレー | B00000 - B00FFF | B00000 - B00FF0 | |  |
| タイマ (接点) | TS00000 - TS02047 | ----- | | |
| タイマ (コイル) | TC00000 - TC02047 | ----- | | |
| カウンタ (接点) | CS00000 - CS01023 | ----- | | |
| カウンタ (コイル) | CC00000 - CC01023 | ----- | | |
| タイマ (現在値) | ----- | TN00000 - TN02047 | | |
| カウンタ (現在値) | ----- | CN00000 - CN01023 | | |
| データレジスタ | ----- |  D000000 - D006143 | |  |
| 特殊レジスタ | ----- | D009000 - D009255 (SD1000 - SD1255) | |  |
| リンクレジスタ | ----- | W0000 - W0FFF | |  |

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-ProEX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

7 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードはデータ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

| デバイス | デバイス名 | デバイスコード (HEX) | アドレスコード |
|-------------------|--------------------|------------------|-----------------------------|
| 入力 | X | 0080 | ワードアドレス ÷ 0x10 の値 |
| 出力 | Y | 0081 | ワードアドレス ÷ 0x10 の値 |
| 内部リレー | M (0000 - 8991) | 0082 | ワードアドレス ÷ 16 の値 |
| 特殊リレー | M (9000 - 9991) | 0083 | (ワードアドレス - 9000) ÷ 16 の値 |
| ラッチリレー | L | 0084 | ワードアドレス ÷ 16 の値 |
| ステップリレー | S | 0087 | ワードアドレス ÷ 16 の値 |
| リンクリレー | B | 0088 | ワードアドレス ÷ 0x10 の値 |
| アナンシェータ | F | 0085 | ワードアドレス ÷ 16 の値 |
| タイマ (現在値) | TN | 0060 | ワードアドレス |
| カウンタ (現在値) | CN | 0061 | ワードアドレス |
| データレジスタ 特殊レジスタ | D | 0000 | ワードアドレス |
| リンクレジスタ | W | 0002 | ワードアドレス |
| ファイルレジスタ | R | 000F | ワードアドレス |
| 拡張ファイルレジスタ | 0R | 0010 | ワードアドレス |
| | : | : | : |
| | 31R | 002F | ワードアドレス |
| | : | : | : |
| | 64R | 0050 | ワードアドレス |

8 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号：機器名：エラーメッセージ（エラー発生箇所）」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

| 項目 | 内容 |
|----------|--|
| 番号 | エラー番号 |
| 機器名 | エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。（初期値 [PLC1]） |
| エラーメッセージ | 発生したエラーに関するメッセージを表示します。 |
| エラー発生箇所 | <p>エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。</p> <p>MEMO</p> <ul style="list-style-type: none"> IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 デバイスアドレスは「アドレス：デバイスアドレス」のように表示されます。 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。 |

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書込み要求でエラー応答を受信しました（受信エラーコード：2[02H]）」

MEMO

- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
- ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守 / トラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。